

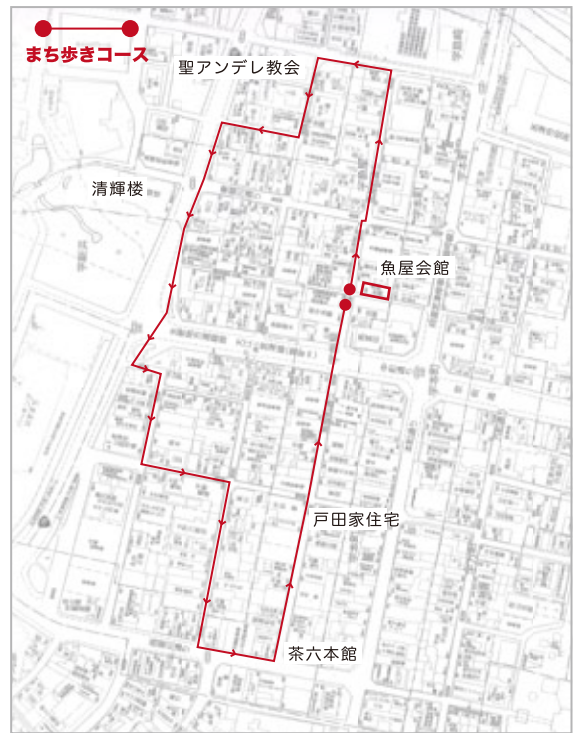
# 新浜・魚屋界限

## 「まち歩き」を開催しました

【主催】：宮津まちづくり研究会 【内容】：まち歩き・景観学習会

【行程】：魚屋会館（魚屋通り）→宮津聖アンデレ教会（新浜通り）→旅館清輝楼（R176）→丹海・公設市場→大道通り→平野家住宅（新浜通り）→旅館茶六本館（魚屋通り）→旧荒木家→魚屋会館※（魚屋会館到着後、勉強会）【参加者数】：15名（事務局含）

地区の住民や今回も宮津高等学校の先生にも参加いただき、新浜・魚屋界限において「まち歩き・景観学習会」を開催しました。協議会のアドバイザーである米光正彦先生にも参加いただき、この地区の魅力や課題を再確認しながら歩きました。千本格子が残るこの界限は、宮津市街地の中でも明治、大正、昭和にかけての風情が混在するエリアで、また、商店が並ぶ界限でもあり、市街地の中でも人と人との交流ができる場所でもあるが、現在はかつての賑わいが薄れてきていると参加されたみなさんも感じておられました。



まち歩き後に、参加された方々から感想をいただきました。空き家、空き地が目立つ中で、今後どのようにして後世に、今あるまち並み景観を残していけるのかについて、意見が多く出されました。協議会のアドバイザーである米光先生からもそれを踏まえた右記の内容の総評をいただきました。

### 【色々な質問・意見がでました。】

- ・空地・空家が目立つように感じた。
- ・懐かしい風景を感じた。古くても立派な建物が残っている。
- ・明治、大正、昭和の時代性が感じられた。混在しているものもあるが、それぞれの違いがよくわかる。

### 【POINT】

#### 「わかりやすいまちに！」

空き地や空き家が目立つ中で、よそ者の目線で見ると店舗にしても民家にしても、開いているのか住んでいるのか非常に分かりにくい。しかしながら、大正ロマンや古い町家であったり良い風景も混在している。景観は、見た目から情報が伝わってくる、「おもてなし、気配りの心」も大事になってくる。魅力を感じたのは、参加者のみなさんが、住民とすれ違う際よくお話をされていたことです。よそ者が見ると大変魅力を感じる風景である。分かりにくい部分を整理しながら現状をもっと理解していけば突破口が見えてくるのではないかと。

【今後の取組み】 「まち歩き」によって発見された魅力や課題を住民の皆さんで共有していく作業を行います。多数の意見を持って新浜・魚屋界限の将来像を検討していきたいと思っております。

## ● 宮津市街地景観ワークショップ開催のお知らせ ●

テーマ「宮津市街地の将来を考える」 前回、各界限で出し合ったまちの景観資源を基に、今後の宮津市街地の景観についての方向性を参加者の皆さんと検討を行います。将来の宮津を一

日 時：12月11日(金)14:00～17:00 緒に考えましょう。皆さんのご参加をお待ちしております。

場 所：宮津市保健センター 2階 ※ご参加希望の方は、表面の「宮津市建設室まち景観係」までご連絡下さい。

※ワークショップとは？・・・宮津のまちづくりに対して誰もが自由に意見を出し合い方向性を決定する会議の手法です。